

父久六百題

下

911.3

7

下

文久六百歌

秋と部

七

月

七月也 宵露のりく 空はつるき

露露子

七月也 やく風抄ある 成別 之

素心

七月也 ありぬ 蛸船の 秋をいふき

虫信

七月也 ねふく 風よ 衣をさしり

衣

文

月

又月也 ねむる 庭下 掃つたをいふき

虫肌

又月也 ねむる 庭下 掃つたをいふき

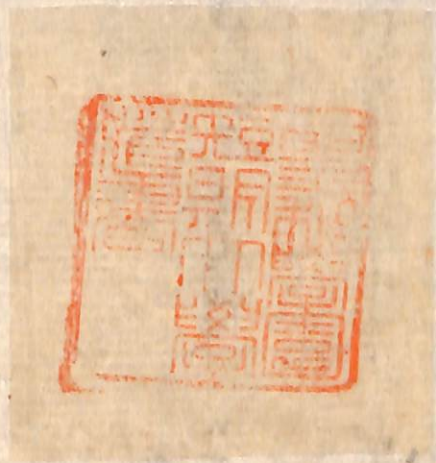
虫肌

又月也 ねむる 庭下 掃つたをいふき

虫肌

又月也 ねむる 庭下 掃つたをいふき

虫肌



接子よ之登のこむる久月うた

立 秋

立 秋 やまをこのよ 黄の 秋の 節

秋 立

秋 立 秋 くらや 海もささりぬ 秋の 空

秋 立 秋 くらや 海もささりぬ 秋の 空

秋 立 秋 くらや 海もささりぬ 秋の 空

秋 立 秋 くらや 海もささりぬ 秋の 空

秋 立 秋 くらや 海もささりぬ 秋の 空

秋 立 秋 くらや 海もささりぬ 秋の 空

秋 立 秋 くらや 海もささりぬ 秋の 空

為 晴

信 民

五 後

是 外

歌 毎

信 五

為 晴

一 吸

公 成

昌 吉

五 郎

秋 立 秋 くらや 海もささりぬ 秋の 空

秋 立 秋 くらや 海もささりぬ 秋の 空

秋 立 秋 くらや 海もささりぬ 秋の 空

秋 立 秋 くらや 海もささりぬ 秋の 空

秋 立 秋 くらや 海もささりぬ 秋の 空

秋 立 秋 くらや 海もささりぬ 秋の 空

秋 立 秋 くらや 海もささりぬ 秋の 空

秋 立 秋 くらや 海もささりぬ 秋の 空

秋 立 秋 くらや 海もささりぬ 秋の 空

秋 立 秋 くらや 海もささりぬ 秋の 空

秋 立 秋 くらや 海もささりぬ 秋の 空

系 剛

能 將

佳 長

社 永

乙 郎

文 種

経 蓮

吉 坡

信 五

昌 吉

五 郎

初秋

この秋の空はけちのよけりて重

一書

初秋のあまきよき水屋うれ

五厚

吸いこよ初秋のそよ風

山古

初秋のそよ風

秋風

初秋のそよ風

秋風

初秋のそよ風

秋風

初秋のそよ風

秋風

初秋のそよ風

秋風

初秋のそよ風

秋風

初秋のそよ風

秋風

初秋のそよ風

秋風

秋

秋のそよ風

秋風

秋

秋のそよ風

秋風

秋

秋のそよ風

秋風

秋

秋のそよ風

秋風

秋

秋のそよ風

秋風

秋

秋のそよ風

秋風

秋

秋のそよ風

秋風

秋

秋のそよ風

秋風

秋

秋のそよ風

秋風

秋

秋のそよ風

秋風

秋の風を引くは秋の風
秋の風を引くは秋の風
秋の風を引くは秋の風
秋の風を引くは秋の風
秋の風を引くは秋の風
秋の風を引くは秋の風
秋の風を引くは秋の風
秋の風を引くは秋の風
秋の風を引くは秋の風
秋の風を引くは秋の風

蓮く
ぬ地
尾村
士
若
之
秋
系
乙

秋の風を引くは秋の風
秋の風を引くは秋の風
秋の風を引くは秋の風
秋の風を引くは秋の風
秋の風を引くは秋の風
秋の風を引くは秋の風
秋の風を引くは秋の風
秋の風を引くは秋の風
秋の風を引くは秋の風
秋の風を引くは秋の風

西
秋
系
乙

七ツの空の...
 大なる...
 星々...
 風鈴...
 星合...
 二ツ星...
 星の...
 星の...
 星の...

古鳥
 虫書
 五叶
 世負
 来久
 の流
 陰邊
 破月
 雪山
 雨水
 涼を

星 彙
 天の川
 星の...
 星の...
 星の...
 星の...
 星の...
 星の...
 星の...
 星の...
 星の...

二路
 岩板
 清水
 菓史
 六角
 新園
 陸雲
 岩山
 中係
 陰氣

貸心袖

星の美はふりー 観の河くいとそ

雪山

けり神は出りて物くまうかーや神

雲霧子

新糸

くむ修や袖のしの糸も下り袖

雲霧

糸傳へ袖よりけりき 新糸くれ

雲霧

立琴

立琴よさそむ出りて 袖の糸

雲霧

とて妻

ぬふりて風きく糸をとりて妻

雲霧

洒後雨

去く晴るうきも糸も下り洒後雨

雲霧

盆の月

盆の月 盆の月 盆の月 盆の月

雲霧

人の美

人の美はふりー 観の河くいとそ

雲霧

大いなる世の山の名は 盆の月

雲霧

観の美はふりー 観の河くいとそ

雲霧

盆の月 盆の月 盆の月 盆の月

雲霧

盆の月 盆の月 盆の月 盆の月

雲霧

盆の月 盆の月 盆の月 盆の月

雲霧

生身魂

生身魂 生身魂 生身魂 生身魂

雲霧

生身魂 生身魂 生身魂 生身魂

雲霧

魂

魂 魂 魂 魂

雲霧

魂 魂 魂 魂

雲霧

魂 魂 魂 魂

雲霧

魂 魂 魂 魂

雲霧

田のぢりん人の横槍を踊この水
人をとるゝあつちまきをささるゝ
蝶人の指さしつゝ居る踊りの那
うゝこの人のうとまきのまきりりれ
むき、せうまきのいゝりけめく踊る
を喰うまきりり踊るあつちまきりり
つゝ入は足しりりまおるまきりり
踊りあつちまきりりまきりり
居るあつちまきりりまきりり
うゝまきりりあつちまきりり
あつちまきりりあつちまきりり

素心
作囊
車馬
中実
精中
捲雪
井水
菓史
智秋
雪氣
素松

飛火

凄心帯の雲層を王ぬきを火
地まきまき雲層を火のまきりり
まきりりまきりりまきりり
角力 砂まきりりまきりり
空まきりりまきりりまきりり
飛入まきりりまきりり

仙芝
百賀
鬼郎
島岬
格尔
素南

二百十日

二百十日の月夜にうれ
種まきのまきりり二百十日の田面より
おのゝまきりりまきりり二百十日の
おのゝまきりりまきりり二百十日の

呂山
中書
花山
佳吉

雨を空のそとにひよよとて秋の空
 風を木の葉のそとにひよよとて秋の空
 雲を木の葉のそとにひよよとて秋の空
 月を木の葉のそとにひよよとて秋の空
 星を木の葉のそとにひよよとて秋の空
 花を木の葉のそとにひよよとて秋の空
 鳥を木の葉のそとにひよよとて秋の空
 虫を木の葉のそとにひよよとて秋の空
 木を木の葉のそとにひよよとて秋の空
 草を木の葉のそとにひよよとて秋の空
 石を木の葉のそとにひよよとて秋の空
 水を木の葉のそとにひよよとて秋の空
 土を木の葉のそとにひよよとて秋の空
 空を木の葉のそとにひよよとて秋の空

遠く
 新山
 秋
 夕
 月
 星
 花
 鳥
 虫
 木
 草
 石
 水
 土
 空

秋の空

文種

秋の空

秋

秋の空

秋

秋の空

秋

秋の空

秋

秋の空

秋

秋の空

秋

秋の空

秋

秋の空

秋

秋の空

秋

秋の空

秋

病

古白中 病を家を 奉る 奉る 奉る
さあよよのまけり 奉る 奉る 奉る
白雲 七月 月の ぬ ぬ ぬ
とけい 病の 病の 病の
名ふや 病の 病の 病の
人は 病の 病の 病の
病の 病の 病の
病の 病の 病の
病の 病の 病の
病の 病の 病の
病の 病の 病の

種

妻

いふら まの 物ふき 恒ふら
種ら まの 物ふき 恒ふら
種ら まの 物ふき 恒ふら
種ら まの 物ふき 恒ふら
種ら まの 物ふき 恒ふら
種ら まの 物ふき 恒ふら
種ら まの 物ふき 恒ふら
種ら まの 物ふき 恒ふら
種ら まの 物ふき 恒ふら
種ら まの 物ふき 恒ふら

木崎
九月
自長
後月
古葉
森山
新山
古葉
一得

池

種ら まの 物ふき 恒ふら
種ら まの 物ふき 恒ふら
種ら まの 物ふき 恒ふら
種ら まの 物ふき 恒ふら
種ら まの 物ふき 恒ふら
種ら まの 物ふき 恒ふら
種ら まの 物ふき 恒ふら
種ら まの 物ふき 恒ふら
種ら まの 物ふき 恒ふら
種ら まの 物ふき 恒ふら

女々
森山
乙五
古葉
後月
二郎
古葉
古葉
古葉
古葉

水 歌

送花之雨
第一 本可憐
花之
三
本
一

按 舟
高
不
蓮
一
一

墨 扇

一
一
一

可
一

墨 波

一
一

一
不

附 別

一
一

不
一

身 下

新 添

一
一

一
一

八 月

一
一

一
一

八 點

一
一

一
一

一
一

一
一

一 日 月

一
一

一
一

三日月人... 物... 月

如哉

二日月... 月

如哉

二日月の... 月

茶熟

二日月... 月

外法

二日月... 月

教

二日月... 月

秋之

初月... 月

茶

八日... 月

共年

初月... 月

共年

初月... 月

共年

初月... 月

共年

初月... 月

共年

初月... 月

共年

初月... 月

共年

初月... 月

共年

結宵... 月

共年

結宵... 月

共年

名月... 月

共年

名月... 月

共年

名月... 月

共年

名月... 月

共年

名月... 月

共年

必用其...
必用其...
必用其...
必用其...
必用其...
必用其...
必用其...
必用其...
必用其...
必用其...

若子
也而
祿之
必也
若子
南在
心
後
山
心
去

必用其...
必用其...
必用其...
必用其...
必用其...
必用其...
必用其...
必用其...
必用其...
必用其...
必用其...

若子
也而
祿之
必也
若子
南在
心
後
山
心
去

沖つとも山は優きよ秋の月
 知風
 垣きあるふよあありちきれ
 吟成
 雲こえら山のききや秋のつき
 十
 雨の月 清くさうらわゆるさや雨の月
 葉圃
 落すきのやうへ上ありふれ月
 七
 ちかきの足んきめさく雨の月
 里廣
 やれせのさえさたのりりるの月
 玉信
 文うらと替りふさくや月雨
 乃晴
 物うら味はあふ月北雨
 住長
 辰あへし一落をす月雨
 則前

月

寝あつこのちたりのと時で月の定
 南
 ちかきの地のあやと月を定
 健
 月のやいほさうあさくはせげを
 彼洞
 些平あけき月をあらさ秋の平
 二
 橙毛月はあふりさる心うれ
 住
 月の短き末さ金銀又風のやう
 身
 月さうあふりさる心うれ
 然
 足雲の深きや峰の村さくね
 叶
 橙きよはるる寝るを月の家
 山
 ねらふ月よりあまきる月の器り
 山
 月さうあふりさる心うれ
 公成

表のふけりけり燈輝陰や月の宿
ゆり月よえ雲ふりて月を夜
廣原や月もせりてよ夜ちやる
るる影のちちりよささや残の月
世まきくほき手近や木の月
糸くく霧の霞を川北月
博習ふ川の廣原や月の舟
糸まのや影をまうく宿の月
月夜や来りたるぬか霞の糸
十のねや月あつちき影ま
十のねや影歩のよき影入の

九瓶
水巻
波回
津十
岩井
中地
山古
丑辰
淡石
若子
水囊

水よ器もくけりや月のいさよおる
霧の霞もよき入ちりてや夜清月
更清のよきや夜既よ霧の霞
志夜中の月をちりてや町あけ
二日月のよきよきよき雪の中
名月やむのよきよきよき
名月や来りて月や木の影
二日月を斜にや波のうち五
望分 浮舟の影よよきよきよき
龍田娘 峰のよきよきよきよき
水 時をゆきよきよきよきよき

卜外
素心
陰交
水亭
知風
之成
歌急
杜の
柳外
文種
水囊

初以 初月 神の初月 磯の初月 ぬ 吉 林 松 林

九月 後めあき 山とあけし 九月 式 好 山

后の月 西よ極のおき 長き 九月 丸 衆 堂

后の月 何れをき 室もあき 九月 丸 不 二 丸

后の月 何れをき 室もあき 九月 丸 後 氏

后の月 何れをき 室もあき 九月 丸 甘 茶

后の月 何れをき 室もあき 九月 丸 半 首

後をき 室もあき 室もあき 九月 丸 初 之

西よ極のおき 長き 九月 丸 飲 仁

山新のうつく 後めあき 九月 丸 末 名

筆の末よ 後めあき 九月 丸 后 名

及おきの 室もあき 九月 丸 風 竹

家文を 室もあき 九月 丸 岩 井

岩をの 室もあき 九月 丸 一 笑

おきあき 室もあき 九月 丸 春 哉

川の新を 室もあき 九月 丸 曉 月

岩をの 室もあき 九月 丸 ぬ 子

岩をの 室もあき 九月 丸 ぬ 子

夜長

水もぬくぬくうつらや露の結衣

縁市

寐て夢てうらみささのそと相とくれ

曾我

展すも月のこころむね長ふあ

昌山

夜長

夜長にふききほきくものうら

文鏡

夜長

月も薄くあつはるの相あつれ

五反

夜長

あつはるやあつはるはるもあつはる

春松子

夜長

あつはるやあつはるはるもあつはる

玉佳

夜長

あつはるやあつはるはるもあつはる

卜外

夜長

あつはるやあつはるはるもあつはる

月栖

夜長

あつはるやあつはるはるもあつはる

春南

餅のもまりのねをのめり

磯山

あつはるやあつはるはるもあつはる

あ氏必

夜長

あつはるやあつはるはるもあつはる

あ氏必

あつはるやあつはるはるもあつはる

甘茶

あつはるやあつはるはるもあつはる

玉那

あつはるやあつはるはるもあつはる

井水

あつはるやあつはるはるもあつはる

玉佳

あつはるやあつはるはるもあつはる

松民

あつはるやあつはるはるもあつはる

松山

あつはるやあつはるはるもあつはる

松山

夜長

あつはるやあつはるはるもあつはる

松山

冬近 春去つてのきき夜に何の山 秋をゆく
行秋 行秋やまをゆく 秋ゆく 人

波月 為山 雲光 土岩 遊世 古島 止後 葛玉 布石 月極 里泉

ゆく秋のあつめちのり 秋は来山
影よ空をゆく 秋は日

遊世

ゆく秋の夜を来鬼の啼よ 秋は
ゆく 秋を来を来鬼の啼よ 秋は

古島

九月冬 秋よ山よ 秋を来 秋は
秋を来 秋は 九月冬

葛玉

秋の夜 川流の極 秋は 秋は
川流の極 秋は 秋は

布石 月極 里泉

秋日和 秋日和 秋日和 秋日和
秋日和 秋日和 秋日和 秋日和

文鏡

秋日和 秋日和 秋日和 秋日和
秋日和 秋日和 秋日和 秋日和

得兵

秋日和 秋日和 秋日和 秋日和
秋日和 秋日和 秋日和 秋日和

霞山

秋の考 秋の考 秋の考 秋の考
秋の考 秋の考 秋の考 秋の考

文京

秋の考 秋の考 秋の考 秋の考
秋の考 秋の考 秋の考 秋の考

双岳

秋の考 秋の考 秋の考 秋の考
秋の考 秋の考 秋の考 秋の考

天園

秋の考 秋の考 秋の考 秋の考
秋の考 秋の考 秋の考 秋の考

美山 米子 一雨 号機 中凡

浮島へ終りゆをりく一葉の形、
古棠

出りらよなきとも相の形をいふ
唐

一葉
文里

吹く風を、れも来りて一葉の丸
梅屋

相見の葉や、葉よ来りてふりて一葉
うら

折
粒茶

秋の風の福りもやちる折
仁英

吹ちる日知りもちる折
為晴

お叶りも信りもあつて、ちる森
波木

葉のあつて、此のあつて、折
高の女

嵐尾叶 嵐尾叶 叶四五折より、折の形
岩玩

串山花 串山花 串山花 串山花
不二丸

木 槎 両方よりつづき、串山花の形
完伍

さう折のら、木槎の形、串山花の形
為也

立伸る、枝よ、何なり、串山花の形
一信

出るといふ、あつて、串山花の形
火夢

折る、付、枝よ、何なり、串山花の形
木和

折、枝よ、枝よ、何なり、串山花の形
鳥崎

折、枝よ、枝よ、何なり、串山花の形
霧湖

折、枝よ、枝よ、何なり、串山花の形
由凡

折、枝よ、枝よ、何なり、串山花の形
吉林

折、枝よ、枝よ、何なり、串山花の形
五松

茶

茶のよき味は、この時、のまろ、茶を
を飲む長し、もあつ、殊の茶

一信
水色

差袴

すい、あき、まのけ、きや、差、袴

水裏

刈萱

刈、萱、や、外、も、ち、の、く、を、入、を、を、吹

泉雪

ら、か、や、の、目、陰、よ、ま、ろ、ぬ、建、の、位、こ

呂山

桔梗

あ、た、せ、し、と、を、き、ろ、の、桔、梗、う、乳

七裏

塔、母、ろ、ろ、う、は、開、き、お、お、せ、し、桔、梗、く、

御来

芭蕉

籬、の、り、の、田、屋、よ、ち、の、芭、蕉、の、乳

為山

畑、の、の、よ、ま、ろ、を、せ、成、の、ら、ろ、ろ、ろ、

千歳山

陣、面、を、備、へ、も、ち、く、も、を、を、う、乳

休友

ま、入、る、風、や、も、せ、を、う、ろ、ろ、の、ち

水裏

萩

け、だ、ま、ろ、の、風、を、う、の、萩、の、考

信民

あ、る、萩、を、よ、ま、ろ、も、志、世、の、木、の、考

担籠

宵、の、う、も、風、を、や、う、よ、ま、萩、の、考

陣立

帯、幅、ろ、ろ、出、世、の、月、あ、り、萩、の、考

素舟

若、ろ、ろ、も、跡、き、あ、の、せ、ろ、や、萩、北、中

生要

何、の、破、れ、月、よ、あ、り、せ、ろ、萩、の、考

其奈

何、陣、の、う、ち、を、う、ろ、や、萩、北、中

蕨山

引、込、よ、あ、ろ、ろ、志、ま、ろ、ろ、萩、の、考

休言

漁、舟、も、あ、ろ、ろ、い、は、ろ、ろ、萩、の、考

休言

葛排

ほ、ろ、ろ、ろ、茶、を、考、ろ、ろ、の、ら、

茅舎

花

ちりやのうはよましきや、唐辛子

せうりしきよきまよ、唐のら

辛せうりよ、春水くゆや、葛根

高んくよ、藤こ、吸こや、唐のら

唐のら、目よ、まよ、まよ、唐辛子

るまの、秋の、吸こ、や、葛根

ちりやの、うはよ、まよ、まよ、葛根

春の、うはよ、まよ、まよ、唐辛子

救ふ、くまよ、の、足り、りま、唐辛子

くまよ、まよ、仙よ、まよ、や、葛根

花

くまよ、まよ、まよ、まよ、唐辛子

芳珠

花

花の、まよ、まよ、まよ、芳珠

花の、まよ、まよ、まよ、芳珠

花の、まよ、まよ、まよ、芳珠

花の、まよ、まよ、まよ、芳珠

花の、まよ、まよ、まよ、芳珠

花の、まよ、まよ、まよ、芳珠

花の、まよ、まよ、まよ、芳珠

花の、まよ、まよ、まよ、芳珠

花の、まよ、まよ、まよ、芳珠

花の、まよ、まよ、まよ、芳珠

花の、まよ、まよ、まよ、芳珠

瓢

蓮の

蓮の、まよ、まよ、まよ、蓮

蓮の、まよ、まよ、まよ、蓮

蓮の、まよ、まよ、まよ、蓮

蓮の、まよ、まよ、まよ、蓮

蓮の、まよ、まよ、まよ、蓮

蓮の、まよ、まよ、まよ、蓮

蓮の、まよ、まよ、まよ、蓮

蓮の、まよ、まよ、まよ、蓮

船の花

舟のり子を家へするも瓢箪の
目もくちの瓢箪は柳のしらのこり
人か舟をらこのちよあふく船の
瓢箪は是をく此の舟大風こ
まてもも舟のまをやうや船の
ままはまありのあよあふくや船の
目のこもこくまふくや船の
目もくちのこくまふくや船の
いとくちのまをく船の
ままのいのこくまふくや船の
いとくちのまをく船の

舟に
又遊
今家
甘茶
梅酒
美酒
心宜
芦川
赤山
水素
酒月

油紅葉

油のり子を家へするも瓢箪の
目もくちの瓢箪は柳のしらのこり
人か舟をらこのちよあふく船の
瓢箪は是をく此の舟大風こ
まてもも舟のまをやうや船の
ままはまありのあよあふくや船の
目のこもこくまふくや船の
目もくちのこくまふくや船の
いとくちのまをく船の
ままのいのこくまふくや船の
いとくちのまをく船の

舟に
又遊
今家
甘茶
梅酒
美酒
心宜
芦川
赤山
水素
酒月

芙蓉

芙蓉のり子を家へするも瓢箪の
目もくちの瓢箪は柳のしらのこり
人か舟をらこのちよあふく船の
瓢箪は是をく此の舟大風こ
まてもも舟のまをやうや船の
ままはまありのあよあふくや船の
目のこもこくまふくや船の
目もくちのこくまふくや船の
いとくちのまをく船の
ままのいのこくまふくや船の
いとくちのまをく船の

舟に
又遊
今家
甘茶
梅酒
美酒
心宜
芦川
赤山
水素
酒月

蜀黍

蜀黍のり子を家へするも瓢箪の
目もくちの瓢箪は柳のしらのこり
人か舟をらこのちよあふく船の
瓢箪は是をく此の舟大風こ
まてもも舟のまをやうや船の
ままはまありのあよあふくや船の
目のこもこくまふくや船の
目もくちのこくまふくや船の
いとくちのまをく船の
ままのいのこくまふくや船の
いとくちのまをく船の

舟に
又遊
今家
甘茶
梅酒
美酒
心宜
芦川
赤山
水素
酒月

木犀

木犀のり子を家へするも瓢箪の
目もくちの瓢箪は柳のしらのこり
人か舟をらこのちよあふく船の
瓢箪は是をく此の舟大風こ
まてもも舟のまをやうや船の
ままはまありのあよあふくや船の
目のこもこくまふくや船の
目もくちのこくまふくや船の
いとくちのまをく船の
ままのいのこくまふくや船の
いとくちのまをく船の

舟に
又遊
今家
甘茶
梅酒
美酒
心宜
芦川
赤山
水素
酒月

花

花のり子を家へするも瓢箪の
目もくちの瓢箪は柳のしらのこり
人か舟をらこのちよあふく船の
瓢箪は是をく此の舟大風こ
まてもも舟のまをやうや船の
ままはまありのあよあふくや船の
目のこもこくまふくや船の
目もくちのこくまふくや船の
いとくちのまをく船の
ままのいのこくまふくや船の
いとくちのまをく船の

舟に
又遊
今家
甘茶
梅酒
美酒
心宜
芦川
赤山
水素
酒月

花のり子を家へするも瓢箪の
目もくちの瓢箪は柳のしらのこり
人か舟をらこのちよあふく船の
瓢箪は是をく此の舟大風こ
まてもも舟のまをやうや船の
ままはまありのあよあふくや船の
目のこもこくまふくや船の
目もくちのこくまふくや船の
いとくちのまをく船の
ままのいのこくまふくや船の
いとくちのまをく船の

舟に
又遊
今家
甘茶
梅酒
美酒
心宜
芦川
赤山
水素
酒月

一ツ家の、庭の、ほくくを竹ぐ
茶園

多市のはらもつむすまより
文

色
西馬

葉の家の、まきまき
龍

日の入れけつ、新い、まきまき
嘉穀

早も、目も種、まきまき
長松子

三日月を、まきまき
龍

此、師、より、まきまき
松下

種、の、まきまき
雪

秋、の、まきまき
外

入、の、まきまき
文

情、の、まきまき
不

を、まきまき
文

新、の、まきまき
不

也、の、まきまき
文

飛、の、まきまき
後

山、の、まきまき
水

山、の、まきまき
半

鳥、の、まきまき
味

魚、の、まきまき
倉

その花もあしく芒の光り、これ
種もよき花の夕日よききりし山
花もよきや出ぬ草もよき人の同
世のよき人きよきよきよき芒系
花もよき世よきよき花の種もよき
花もよき世よきよきの中北北よき
花もよき世よきよきよきよき
山花もよき花もよきよきよき
種もよきよきよきよきよき
花もよきよきよきよきよき
花もよきよきよきよきよき

萩 芒

子乙女
庭の
定望
花
松氏
里
山
由

紫花 秋出紫 東雨紫 菊の玉

七州の種花けき紫花の形
うきよきの紫よきよき秋出紫
秋もよきよきよきよき秋出紫
まのよきよきよきよき菊の玉
熱珠よきよきよきよき菊の玉
花のよきよきよきよき菊の玉
花のよきよきよきよき菊の玉
花のよきよきよきよき菊の玉

風仙花

花のよきよきよきよき菊の玉
花のよきよきよきよき菊の玉
花のよきよきよきよき菊の玉
花のよきよきよきよき菊の玉
花のよきよきよきよき菊の玉
花のよきよきよきよき菊の玉
花のよきよきよきよき菊の玉

七州の種

花のよきよきよきよき菊の玉
花のよきよきよきよき菊の玉
花のよきよきよきよき菊の玉
花のよきよきよきよき菊の玉
花のよきよきよきよき菊の玉
花のよきよきよきよき菊の玉
花のよきよきよきよき菊の玉

右具
葵史
管成
文種
一得
後凋
花梅
花
花
花
花

晴 政 晴 政 や 庵 歩 庭 の 秋 日 也

新 夕 月 家 山 寺 へ 寄 せ ば 大 晴 政 也

一 日 晴 也 夕 月 家 山 寺 へ 寄 せ ば 大 晴 政 也

夕 月 家 山 寺 へ 寄 せ ば 大 晴 政 也

夕 月 家 山 寺 へ 寄 せ ば 大 晴 政 也

夕 月 家 山 寺 へ 寄 せ ば 大 晴 政 也

夕 月 家 山 寺 へ 寄 せ ば 大 晴 政 也

夕 月 家 山 寺 へ 寄 せ ば 大 晴 政 也

夕 月 家 山 寺 へ 寄 せ ば 大 晴 政 也

夕 月 家 山 寺 へ 寄 せ ば 大 晴 政 也

夕 月 家 山 寺 へ 寄 せ ば 大 晴 政 也

未 月

外

味 廣

公 成

花 出

桂 堂

乙 郎

一 川

之 亭

之 試

鬼 灯 鬼 灯 の 情 ぞ 傳 へ ば 夕 月 也

葛 葛 の 葉 ぞ 夕 月 也

夕 月 家 山 寺 へ 寄 せ ば 大 晴 政 也

夕 月 家 山 寺 へ 寄 せ ば 大 晴 政 也

夕 月 家 山 寺 へ 寄 せ ば 大 晴 政 也

夕 月 家 山 寺 へ 寄 せ ば 大 晴 政 也

夕 月 家 山 寺 へ 寄 せ ば 大 晴 政 也

夕 月 家 山 寺 へ 寄 せ ば 大 晴 政 也

夕 月 家 山 寺 へ 寄 せ ば 大 晴 政 也

夕 月 家 山 寺 へ 寄 せ ば 大 晴 政 也

夕 月 家 山 寺 へ 寄 せ ば 大 晴 政 也

完 任

晴 輝

雪 江

雪 堂

玉 頂

佳 音

佳 音

佳 音

佳 音

佳 音

佳 音

晴

出舟より入舟の事一 糖の秋
 素人
 文志
 素人
 中俣
 梅江
 此素
 見外
 高野共

糖の事
 祖
 雪山
 貞忠
 一得
 信河
 貞忠
 双岳
 文里
 好山

為種
 八東種

菊

葉

秋の葉のそよよと吹く
 風のそよよと吹く
 水は流るる
 雲は行く
 山は静か
 川は流る
 鳥は鳴く
 虫は鳴く
 花は咲く
 葉は落ち

雪 初
 若 秋
 城 山
 長 臺
 俄 友
 水 壺
 山 古
 波 田
 口 外
 星 岬
 乃 晴

秋

秋の葉のそよよと吹く
 風のそよよと吹く
 水は流るる
 雲は行く
 山は静か
 川は流る
 鳥は鳴く
 虫は鳴く
 花は咲く
 葉は落ち

雪 初
 若 秋
 城 山
 長 臺
 俄 友
 水 壺
 山 古
 波 田
 口 外
 星 岬
 乃 晴

葉

お茶

東よりよき茶をいそぐ茶は
又一番りあるの茶は
得茶をとりぬかき
一株の茶をよ新目と日し
茶をよき階一茶のいそぐ
茶をよきぬかきぬか
茶をよきぬかきぬか
茶をよきぬかきぬか
茶をよきぬかきぬか
茶をよきぬかきぬか
茶をよきぬかきぬか
茶をよきぬかきぬか

七巨月
蓮
中
茶
新
若
物
新
嵐
由

大川の茶をいそぐ茶は
又一番りあるの茶は
得茶をとりぬかき
一株の茶をよ新目と日し
茶をよき階一茶のいそぐ
茶をよきぬかきぬか
茶をよきぬかきぬか
茶をよきぬかきぬか
茶をよきぬかきぬか
茶をよきぬかきぬか
茶をよきぬかきぬか
茶をよきぬかきぬか
茶をよきぬかきぬか

彼内
嵐
由
由
由
由
由
由
由
由
由
由

木の葉 木乃葉 木乃葉 木乃葉 木乃葉

葉の葉 葉の葉 葉の葉 葉の葉 葉の葉

葉の葉 葉の葉 葉の葉 葉の葉 葉の葉

葉の葉 葉の葉 葉の葉 葉の葉 葉の葉

佛手柑 佛手柑 佛手柑 佛手柑 佛手柑

佛手柑 佛手柑 佛手柑 佛手柑 佛手柑

佛手柑 佛手柑 佛手柑 佛手柑 佛手柑

栗 栗 栗 栗 栗

栗 栗 栗 栗 栗

栗 栗 栗 栗 栗

栗 栗 栗 栗 栗

密柑 密柑 密柑 密柑 密柑

密柑 密柑 密柑 密柑 密柑

密柑 密柑 密柑 密柑 密柑

未枯 未枯 未枯 未枯 未枯

未枯 未枯 未枯 未枯 未枯

未枯 未枯 未枯 未枯 未枯

花 花 花 花 花

花 花 花 花 花

花 花 花 花 花

木の葉 木の葉 木の葉 木の葉 木の葉

木の葉 木の葉 木の葉 木の葉 木の葉

文里

葉位

此水

鳥雪

再戦

子乙女

雪哀

漢衣

片金

葉葉子

此月

花心

水壺

露尖

漢衣

鳥雪

片金

葉山

彼月

候元

山古

梅石

あまのりともすい白あや木の子山
深山ぬちのあやまの苗字うぬち
業とゆいにあまのりや木のこひり
たふとも味をふあや木のこひり
松茸やまきまのあやまのこひり
まの茸や山ぬちのあやまのこひり
年よりやあやまのあやまのこひり
茸のりや葉のりあやまのこひり
あやまのあやまのあやまのこひり
あやまのあやまのあやまのこひり
あやまのあやまのあやまのこひり
あやまのあやまのあやまのこひり

稲孫田

田田のあやまのあやまのこひり
あやまのあやまのあやまのこひり
あやまのあやまのあやまのこひり
あやまのあやまのあやまのこひり
あやまのあやまのあやまのこひり
あやまのあやまのあやまのこひり

あやま

あやまのあやまのあやまのこひり
あやまのあやまのあやまのこひり
あやまのあやまのあやまのこひり
あやまのあやまのあやまのこひり
あやまのあやまのあやまのこひり
あやまのあやまのあやまのこひり

あやま

あやまのあやまのあやまのこひり
あやまのあやまのあやまのこひり
あやまのあやまのあやまのこひり
あやまのあやまのあやまのこひり
あやまのあやまのあやまのこひり
あやまのあやまのあやまのこひり

あやまのあやまのあやまのこひり
あやまのあやまのあやまのこひり
あやまのあやまのあやまのこひり
あやまのあやまのあやまのこひり
あやまのあやまのあやまのこひり
あやまのあやまのあやまのこひり

あやま

あやまのあやまのあやまのこひり
あやまのあやまのあやまのこひり
あやまのあやまのあやまのこひり
あやまのあやまのあやまのこひり
あやまのあやまのあやまのこひり
あやまのあやまのあやまのこひり

あやま

あやまのあやまのあやまのこひり
あやまのあやまのあやまのこひり
あやまのあやまのあやまのこひり
あやまのあやまのあやまのこひり
あやまのあやまのあやまのこひり
あやまのあやまのあやまのこひり

虫

多種ありて種人集りて虫の姿
味し虫の心を察し雨を法きり
法養生の法を授けし虫の形
神傳の法を月相や虫の姿
虫の心や身のふりやまづり
むるるよ調つきりて虫の
むせくらる法よのや虫の
虫の心やしる心やの
くむるや身のふりや虫の
むせくらる法よのや虫の
虫の心やしる心やの

後氣 祖師 為山 素屋 源五 眉南 晴に 鏡堂 虫鳥 天窓

虫ありて種人集りて虫の姿
味し虫の心を察し雨を法きり
法養生の法を授けし虫の形
神傳の法を月相や虫の姿
虫の心や身のふりやまづり
むるるよ調つきりて虫の
むせくらる法よのや虫の
虫の心やしる心やの
くむるや身のふりや虫の
むせくらる法よのや虫の
虫の心やしる心やの

後氣 祖師 為山 素屋 源五 眉南 晴に 鏡堂 虫鳥 天窓

さしゆくも同くさしゆく家と虫 水巻

茶立虫

何時と人をよく藤と茶立虫

奥松子

あつし又おとや、定と茶立虫

、

夏月と、定と茶立虫

箱函

定と新風と、あつし茶立虫

一字

あつし、定と、定と茶立虫

菓子

松

おとや、あつし、月の形、ささ

小松

あつし、定と、あつし、あつし、あつし

山

鈴

あつし、あつし、あつし、あつし

菓子

あつし、あつし、あつし、あつし

、

茶

虫

あつし、あつし、あつし、あつし

山

無

虫

あつし、あつし、あつし、あつし

山

茶

虫

あつし、あつし、あつし、あつし

山

茶

虫

あつし、あつし、あつし、あつし

山

茶

虫

あつし、あつし、あつし、あつし

山

茶

虫

あつし、あつし、あつし、あつし

山

茶

虫

あつし、あつし、あつし、あつし

山

寤馬

あつし、あつし、あつし、あつし

文種

あつし、あつし、あつし、あつし

枕悦

あつし、あつし、あつし、あつし

夕遊

あつし、あつし、あつし、あつし

我光

あつし、あつし、あつし、あつし

水巻

あつし、あつし、あつし、あつし

芳川

あつし、あつし、あつし、あつし

水巻

あつし、あつし、あつし、あつし

茶

あつし、あつし、あつし、あつし

茶

あつし、あつし、あつし、あつし

北松

燈をみるも庵のうらな帯のくさくさ
築山

時や只のうらな帯をみるくさくさ
水山

雨の夜や帯をみるくさくさ
一帯

夕の夜や帯をみるくさくさ
水囊

夕の夜や帯をみるくさくさ
南水

夕の夜や帯をみるくさくさ
水山

夕の夜や帯をみるくさくさ
花山

夕の夜や帯をみるくさくさ
水山

夕の夜や帯をみるくさくさ
水山

夕の夜や帯をみるくさくさ
水山

情の燈
夕の夜
不中

情の燈
夕の夜
水囊

情の燈
夕の夜
株長

情の燈
夕の夜
蓬宇

情の燈
夕の夜
杜若

情の燈
夕の夜
文彦

情の燈
夕の夜
竹囊

情の燈
夕の夜
水山

情の燈
夕の夜
水山

情の燈
夕の夜
水山

情

情の燈
夕の夜
水山

朔の夜もあけきく夕あけ
 日くくくくくくくくくく
 市金

秋の夜
 秋の夜もあけきく夕あけ
 市金

義
 義の夜もあけきく夕あけ
 市金

塩州
 塩州の夜もあけきく夕あけ
 市金

秋の夜
 秋の夜もあけきく夕あけ
 市金

新
 新の夜もあけきく夕あけ
 市金

晴
 晴の夜もあけきく夕あけ
 市金

下り築 川の水は流すにせりぬ下り築 遊也
 築山子 青柳をたるとまのの夕日影 九把
 山を七葉山子の外より人に見せ 壯山
 無時雨ふもせりてをいさのししハ 一鳥雪
 玄あき日影よとてあつるのししハ 此兼
 新布しる余まの回をさるる築山子ハ 甫お
 崎子 庭よとふ知りしとゆる崎子ハ 蓬く
 一葉よまの之れハあつるハ 菟月
 引板 笠屋より方角美やハやりの并ハ 素山
 流板 舟のしちまの流あつる新の舟ハ 十
 燒鳥 燒鳥やハいさハいさハいさハいさハ 唯風

乙を帰 空を晴く入りて暮し一宵の夜 文里
 此まあつる流りしとゆる崎子ハ 此兼
 葉あつるよあつるをいさのししハ 楊遠
 葉の空此まをいさのししハ 楊遠
 楊遠やあつるよあつるをいさのししハ 楊遠
 月を中居るいさのししハ 楊遠
 あつるよあつるの流あつるや居るあ 不凍
 里の灯を屋用いさのししハ 大津屋 七後

雁

四ノ巻

東ノ巻より子供ノ巻ニ至リテ四ノ巻

一巻

四ノ巻ニ至ルヤ昔ノ日ノ初メ是

巻ノ

採

采ルハ山ノ中ニ採ルハ採ルハ採ル

文里

山

山ノ巻ニ至ルヤ昔ノ日ノ初メ是

採ノ

類

類ノ巻ニ至ルヤ昔ノ日ノ初メ是

採ノ

類

類ノ巻ニ至ルヤ昔ノ日ノ初メ是

採ノ

採

採ノ巻ニ至ルヤ昔ノ日ノ初メ是

採ノ

採ノ巻ニ至ルヤ昔ノ日ノ初メ是

採ノ

採ノ巻ニ至ルヤ昔ノ日ノ初メ是

採ノ

採ノ巻ニ至ルヤ昔ノ日ノ初メ是

採ノ

川

川ノ巻ニ至ルヤ昔ノ日ノ初メ是

採ノ

若

若ノ巻ニ至ルヤ昔ノ日ノ初メ是

採ノ

若ノ巻ニ至ルヤ昔ノ日ノ初メ是

採ノ

若ノ巻ニ至ルヤ昔ノ日ノ初メ是

採ノ

若ノ巻ニ至ルヤ昔ノ日ノ初メ是

採ノ

若ノ巻ニ至ルヤ昔ノ日ノ初メ是

採ノ

若ノ巻ニ至ルヤ昔ノ日ノ初メ是

採ノ

若ノ巻ニ至ルヤ昔ノ日ノ初メ是

採ノ

巻

巻ノ巻ニ至ルヤ昔ノ日ノ初メ是

採ノ

新

新葉樹

新葉

蛇宮

ちりちりや葉はしきりらのある

根はかたまりてさきんじりか

池の入り口にわらわをいそぐら

たふさくちちちくくくくくくくく

枝はみぎへくくくくくくくく

蛇宮より入るや葉舟のよみ出し

蛇宮より入るよきよきよきよき

蛇宮より入るや花をさるるる

蛇宮より入るや花の雨さき

蛇宮より入るや花の雨さき

六株

再戦

之試

雪山

山中

雪山

雪山

雪山

雪山

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

ちりちりや葉はしきりらのある

根はかたまりてさきんじりか

池の入り口にわらわをいそぐら

たふさくちちちくくくくくくくく

枝はみぎへくくくくくくくく

蛇宮より入るや葉舟のよみ出し

蛇宮より入るよきよきよきよき

蛇宮より入るや花をさるるる

蛇宮より入るや花の雨さき

蛇宮より入るや花の雨さき

蛇宮より入るや花の雨さき

お成

見外

花衣

遊程

花衣

花衣

花衣

花衣

花衣

花衣

花衣

男子小若あまを九月少神あけ
真玉

蓮の飯 蓮の飯を煮たのり
呂山

喰 米 燻米と十把かき刺る門田の草
茶成

新 沼 燈を引よきまのむ村沼う丸
赤月

新 沼 燈を引よきまのむ村沼う丸
赤月

新 沼 燈を引よきまのむ村沼う丸
赤月

新 沼 燈を引よきまのむ村沼う丸
赤月

新 沼 燈を引よきまのむ村沼う丸
赤月

新 沼 燈を引よきまのむ村沼う丸
赤月

新 沼 燈を引よきまのむ村沼う丸
赤月

新 沼 燈を引よきまのむ村沼う丸
赤月

新 沼 燈を引よきまのむ村沼う丸
赤月

新 沼 燈を引よきまのむ村沼う丸
赤月

新 沼 燈を引よきまのむ村沼う丸
赤月

新 沼 燈を引よきまのむ村沼う丸
赤月

新 沼 燈を引よきまのむ村沼う丸
赤月

新 沼 燈を引よきまのむ村沼う丸
赤月

新 沼 燈を引よきまのむ村沼う丸
赤月

新 沼 燈を引よきまのむ村沼う丸
赤月

迎中や去合きりしつあり一
一字

わの入生をわしつりつ果を暮る
水囊

逢火のつりしつりつりつりつ
怪爪

相 物 鐘 子 茶 室 へ 奉 へ 奉 へ 奉 へ
此 自 ち 瓦 園

そのつりつりつりつりつりつ
此 自

若 亮 是 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
恒 藤

餘 少 不 折 ち ち ち ち ち ち ち ち
相 古

所 の 馬 其 ち ち ち ち ち ち ち ち
陸 安

總 糸 宵 ち ち ち ち ち ち ち ち
表 山

表 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
怪 爪

其 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
此 囊

魂 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
北 松

物 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
徐 蓬

魂 物 の 灯 ち ち ち ち ち ち ち ち
波 路

玉 相 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
蓬 山

魂 相 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
為 山

其 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
女 怪

魂 相 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
此 囊

た ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
京 糸

玉 物 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
表 樹

墓 糸 其 ち ち ち ち ち ち ち ち ち
此 風

烟 中 少 ち ち ち ち ち ち ち ち ち
京 糸

燈籠 燈籠を百つつある思ひく

ゆきせきく 柱のくき 燈籠の

あきらく けいんあつ 門より 燈籠の

あきらく けいんあつ 門より 燈籠の

あきらく けいんあつ 門より 燈籠の

あきらく けいんあつ 門より 燈籠の

あきらく けいんあつ 門より 燈籠の

あきらく けいんあつ 門より 燈籠の

あきらく けいんあつ 門より 燈籠の

あきらく けいんあつ 門より 燈籠の

あきらく けいんあつ 門より 燈籠の

文種

玉清

中儿

素成

松号

此囊

佳音

嶺峰

文苑

松号

あきらく けいんあつ 門より 燈籠の

あきらく けいんあつ 門より 燈籠の

あきらく けいんあつ 門より 燈籠の

あきらく けいんあつ 門より 燈籠の

あきらく けいんあつ 門より 燈籠の

あきらく けいんあつ 門より 燈籠の

あきらく けいんあつ 門より 燈籠の

あきらく けいんあつ 門より 燈籠の

あきらく けいんあつ 門より 燈籠の

あきらく けいんあつ 門より 燈籠の

あきらく けいんあつ 門より 燈籠の

法水

雪山

古業

野原

茶峯

双圃

子遊

崖波

文種

一亭

双岳

大文字
の火

燈籠

木

工

種屋作 ありはしの古きも種屋作 不二丸
放生と 種屋作のしきたりあり 放生と 桃悦

一画のよき種屋作の種屋作の種屋作 二中
種屋作の種屋作の種屋作の種屋作

種屋作の種屋作の種屋作の種屋作 双岳
種屋作の種屋作の種屋作の種屋作

種屋作の種屋作の種屋作の種屋作 雪菖
種屋作の種屋作の種屋作の種屋作

種屋作の種屋作の種屋作の種屋作 佳岳
種屋作の種屋作の種屋作の種屋作

種屋作の種屋作の種屋作の種屋作 不二丸
種屋作の種屋作の種屋作の種屋作

種屋作の種屋作の種屋作の種屋作 種屋作
種屋作の種屋作の種屋作の種屋作

種屋作の種屋作の種屋作の種屋作 文種
種屋作の種屋作の種屋作の種屋作

種屋作の種屋作の種屋作の種屋作 樹石
種屋作の種屋作の種屋作の種屋作

種屋作の種屋作の種屋作の種屋作 一字
種屋作の種屋作の種屋作の種屋作

種屋作の種屋作の種屋作の種屋作 不中
種屋作の種屋作の種屋作の種屋作

種屋作の種屋作の種屋作の種屋作 唯凡
種屋作の種屋作の種屋作の種屋作

種屋作の種屋作の種屋作の種屋作 三猿
種屋作の種屋作の種屋作の種屋作

種屋作の種屋作の種屋作の種屋作 从岳
種屋作の種屋作の種屋作の種屋作

又名六百題

冬之部

十月 十月 十月 十月 十月 十月 十月 十月 十月 十月

十月 十月 十月 十月 十月 十月 十月 十月 十月 十月

十月 十月 十月 十月 十月 十月 十月 十月 十月 十月

十月 十月 十月 十月 十月 十月 十月 十月 十月 十月

十月 十月 十月 十月 十月 十月 十月 十月 十月 十月

十月 十月 十月 十月 十月 十月 十月 十月 十月 十月

十月 十月 十月 十月 十月 十月 十月 十月 十月 十月

十月 十月 十月 十月 十月 十月 十月 十月 十月 十月

九紀

祐之

雲村

雲山

中書

庭五

雲華

仙芝

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 十月, 十月, 十月, etc.

十月の末に...

神

少の...

との山へ...

旗山の...

社

宗と信...

社を...

もろ...

十

社を...

社を...

社を...

里唐

山古

徐葉

水島

小惑

世貞

朱新

信一

崇格

茂吉

小六月

海程の...

深田...

松葉...

小

一月の...

日...

引...

小...

海...

夜...

東遊

係友

春玉

仙芝

逸剛

侯吉

恒彦

連理

茶相

竹文

小春日たむ 芒よさるる ありけり
世を旅の神あり 安き小春の夜
雲の影も 暮もさるる しのびのこ
さへ 霞や二日は 霞の影も 見の小春
黄をよも 暮よまらるる 小春の
世の小春 山のいさよ 小春の夜
阿の川の小春 阿の川 小春の夜
阿の川へ 阿の川 小春の夜
阿の川へ 阿の川 小春の夜
阿の川へ 阿の川 小春の夜
阿の川へ 阿の川 小春の夜

きく 懐父 秋や 茶室 花風 徳水 地路 玉徳 宗水 隆岳 水巻

爽の子 昔のやうく 是すのの なる 爽の子

雪の日 雪の日は 雪の日は 雪の日は

雪の夜 雪の夜は 雪の夜は 雪の夜は

雪の朝 雪の朝は 雪の朝は 雪の朝は

雪の夕 雪の夕は 雪の夕は 雪の夕は

雪の月 雪の月は 雪の月は 雪の月は

雪の星 雪の星は 雪の星は 雪の星は

雪の雲 雪の雲は 雪の雲は 雪の雲は

雪の霞 雪の霞は 雪の霞は 雪の霞は

雪の霧 雪の霧は 雪の霧は 雪の霧は

雪の雨 雪の雨は 雪の雨は 雪の雨は

只山

双岳

玉徳

薫煙

雪山

雪雲

雪山

雪岳

雪霧

雪雨

雪風

端時雨
神時雨
神時雨
神時雨
神時雨
神時雨
神時雨
神時雨

始好
山山
山山
山山
山山
山山
山山
山山

神時雨
神時雨
神時雨
神時雨
神時雨
神時雨
神時雨
神時雨
神時雨
神時雨

神時雨
神時雨
神時雨
神時雨
神時雨
神時雨
神時雨
神時雨
神時雨
神時雨

花をさくちて ねのしりくくつれ
清の足あまの海をくくくくく
花をさくちて ねのしりくくつれ
花をさくちて ねのしりくくつれ
花をさくちて ねのしりくくつれ
花をさくちて ねのしりくくつれ
花をさくちて ねのしりくくつれ
花をさくちて ねのしりくくつれ
花をさくちて ねのしりくくつれ
花をさくちて ねのしりくくつれ

菊 花
菊 花
菊 花
菊 花
菊 花
菊 花
菊 花
菊 花
菊 花
菊 花

花をさくちて ねのしりくくつれ
花をさくちて ねのしりくくつれ
花をさくちて ねのしりくくつれ
花をさくちて ねのしりくくつれ
花をさくちて ねのしりくくつれ
花をさくちて ねのしりくくつれ
花をさくちて ねのしりくくつれ
花をさくちて ねのしりくくつれ
花をさくちて ねのしりくくつれ
花をさくちて ねのしりくくつれ

菊 花
菊 花
菊 花
菊 花
菊 花
菊 花
菊 花
菊 花
菊 花
菊 花

春採り時より夏採り時
 秋採り時より冬採り時
 春採り時より夏採り時
 秋採り時より冬採り時
 春採り時より夏採り時
 秋採り時より冬採り時
 春採り時より夏採り時
 秋採り時より冬採り時
 春採り時より夏採り時
 秋採り時より冬採り時
 春採り時より夏採り時
 秋採り時より冬採り時

霜

春採り時より夏採り時
 秋採り時より冬採り時
 春採り時より夏採り時
 秋採り時より冬採り時
 春採り時より夏採り時
 秋採り時より冬採り時
 春採り時より夏採り時
 秋採り時より冬採り時
 春採り時より夏採り時
 秋採り時より冬採り時
 春採り時より夏採り時
 秋採り時より冬採り時

春と秋をきく日や霜のを
自長

晴しつゝする空のまうへや霜の月
表霜

霜をきく空のまうへや霜の月
素人

霜をきく空のまうへや霜の月
霜を

霜をきく空のまうへや霜の月
霜を

霜をきく空のまうへや霜の月
霜を

霜をきく空のまうへや霜の月
霜を

霜をきく空のまうへや霜の月
霜を

霜をきく空のまうへや霜の月
霜を

霜をきく空のまうへや霜の月
霜を

霜をきく空のまうへや霜の月
霜を

霜をきく空のまうへや霜の月
霜を

霜をきく空のまうへや霜の月
霜を

霜をきく空のまうへや霜の月
霜を

霜をきく空のまうへや霜の月
霜を

霜をきく空のまうへや霜の月
霜を

霜をきく空のまうへや霜の月
霜を

霜をきく空のまうへや霜の月
霜を

霜をきく空のまうへや霜の月
霜を

不

霜をきく空のまうへや霜の月
霜を

不枯

時... 三...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

梅
 過
 仙
 樹
 之
 聖
 美
 遠
 月
 空
 枯
 好

祕雪

...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

不
 比
 其
 百
 第
 作
 孫
 曲
 亦
 社
 仙

降るる雪に神をまのらまのふ
 神をまのふふふふふふふふ
 神をまのふふふふふふふふ
 神をまのふふふふふふふふ
 神をまのふふふふふふふふ
 神をまのふふふふふふふふ
 神をまのふふふふふふふふ
 神をまのふふふふふふふふ

文種 車扇 化囊 一高 中書 中書 中書 中書

初氷 降るる雪に神をまのらまのふ
 神をまのふふふふふふふふ
 神をまのふふふふふふふふ
 神をまのふふふふふふふふ
 神をまのふふふふふふふふ
 神をまのふふふふふふふふ
 神をまのふふふふふふふふ
 神をまのふふふふふふふふ

文里 中几 種好 物出 陸安 友之 往東 川端 佳水 佳長

初氷 降るる雪に神をまのらまのふ
 神をまのふふふふふふふふ
 神をまのふふふふふふふふ
 神をまのふふふふふふふふ
 神をまのふふふふふふふふ
 神をまのふふふふふふふふ
 神をまのふふふふふふふふ
 神をまのふふふふふふふふ

文里 中几 種好 物出 陸安 友之 往東 川端 佳水 佳長

赤の雪を愛し玉ふまを冬の月
 月 砂漠の赤井をたぐりまゆる月
 寒き 仲冬の一應あるをまのつる雪を
 松林やふらふらとさき葉の志あり
 雪をうらうらと伝ふ町の雪をうら
 出向ふもふとふらふらとさき
 おもふくく雪の思ふはつる雪を
 人の涙のたぐり雪をうらぬ中葉
 授けのたぐり雪をうらぬ中葉
 雪のたぐり雪をうらぬ中葉
 雪のたぐり雪をうらぬ中葉

水巻 舟嶋 鳥雪 女袴 麦葉 玉葉 夕遊 晴燈 雷に 花風

揚 雪のたぐり雪をうらぬ中葉
 雪のたぐり雪をうらぬ中葉
 雪のたぐり雪をうらぬ中葉
 雪のたぐり雪をうらぬ中葉
 雪のたぐり雪をうらぬ中葉
 雪のたぐり雪をうらぬ中葉
 雪のたぐり雪をうらぬ中葉
 雪のたぐり雪をうらぬ中葉

炭 雪のたぐり雪をうらぬ中葉
 雪のたぐり雪をうらぬ中葉
 雪のたぐり雪をうらぬ中葉
 雪のたぐり雪をうらぬ中葉
 雪のたぐり雪をうらぬ中葉
 雪のたぐり雪をうらぬ中葉
 雪のたぐり雪をうらぬ中葉
 雪のたぐり雪をうらぬ中葉

炭 雪のたぐり雪をうらぬ中葉
 雪のたぐり雪をうらぬ中葉
 雪のたぐり雪をうらぬ中葉
 雪のたぐり雪をうらぬ中葉
 雪のたぐり雪をうらぬ中葉
 雪のたぐり雪をうらぬ中葉
 雪のたぐり雪をうらぬ中葉
 雪のたぐり雪をうらぬ中葉

中葉 中葉 中葉 中葉 中葉 中葉 中葉 中葉

煙の縁は日のさしあつたつたつた
縁はをま戻つきあつたつたつた
背片はをま戻つたつたつた
雪踏つてもま戻つたつたつた
炭のまやま戻つたつたつた
炭のまやま戻つたつたつた
雪踏つてもま戻つたつたつた
炭のまやま戻つたつたつた
雪踏つてもま戻つたつたつた
炭のまやま戻つたつたつた
雪踏つてもま戻つたつたつた
炭のまやま戻つたつたつた

龜 龜
龜 龜
龜 龜
龜 龜
龜 龜
龜 龜
龜 龜
龜 龜
龜 龜
龜 龜
龜 龜
龜 龜

水 氷 氷 氷
氷 氷 氷 氷
氷 氷 氷 氷
氷 氷 氷 氷
氷 氷 氷 氷
氷 氷 氷 氷
氷 氷 氷 氷
氷 氷 氷 氷
氷 氷 氷 氷
氷 氷 氷 氷
氷 氷 氷 氷
氷 氷 氷 氷
氷 氷 氷 氷

水 氷 氷 氷
氷 氷 氷 氷
氷 氷 氷 氷
氷 氷 氷 氷
氷 氷 氷 氷
氷 氷 氷 氷
氷 氷 氷 氷
氷 氷 氷 氷
氷 氷 氷 氷
氷 氷 氷 氷
氷 氷 氷 氷
氷 氷 氷 氷
氷 氷 氷 氷

世を雪や新命のころに雪はし

由松

雪はさかや人のまゝに雪はし

途剛

さ

雪はさかや人のまゝに雪はし

雪瑞

雪はさかや人のまゝに雪はし

雪須

雪はさかや人のまゝに雪はし

雪須

雪はさかや人のまゝに雪はし

雪須

雪はさかや人のまゝに雪はし

雪須

世

雪はさかや人のまゝに雪はし

雪須

雪はさかや人のまゝに雪はし

雪須

雪はさかや人のまゝに雪はし

雪須

雪はさかや人のまゝに雪はし

雪須

雪はさかや人のまゝに雪はし

雪須

雪はさかや人のまゝに雪はし

雪須

雪はさかや人のまゝに雪はし

雪須

雪はさかや人のまゝに雪はし

雪須

雪はさかや人のまゝに雪はし

雪須

雪はさかや人のまゝに雪はし

雪須

雪はさかや人のまゝに雪はし

雪須

雪はさかや人のまゝに雪はし

雪須

雪はさかや人のまゝに雪はし

雪須

雪はさかや人のまゝに雪はし

雪須

ちりこたうて書偏 ぼくろく雪んんく

せんく之雪んんく けりけりけりけり

えんくくくく 形りのんくくくくく

雪んんく 雪んんく 雪んんく 雪んんく

雪んんく 雪んんく 雪んんく 雪んんく

雪んんく 雪んんく 雪んんく 雪んんく

雪んんく 雪んんく 雪んんく 雪んんく

雪んんく 雪んんく 雪んんく 雪んんく

雪んんく 雪んんく 雪んんく 雪んんく

漢

換

一

桃

雪

波

之

呂

種

兔

乃

境

月

始

始

始

始

始

雪んんく

雪んんく

雪んんく

雪んんく

雪んんく

雪んんく

雪んんく

雪んんく

雪んんく

雪んんく 雪んんく 雪んんく 雪んんく

雪んんく 雪んんく 雪んんく 雪んんく

雪んんく 雪んんく 雪んんく 雪んんく

雪んんく 雪んんく 雪んんく 雪んんく

雪んんく 雪んんく 雪んんく 雪んんく

雪んんく 雪んんく 雪んんく 雪んんく

雪んんく 雪んんく 雪んんく 雪んんく

雪んんく 雪んんく 雪んんく 雪んんく

雪んんく 雪んんく 雪んんく 雪んんく

波

出

雪

山

種

如

雪

以

始

雪路 雪道のあつてあつて舟のこも
雪車 雪車もあつてあつて舟のこも
いづれん 雪車もあつてあつて舟のこも
雪車 雪車もあつてあつて舟のこも

橋 橋のあつてあつて舟のこも
橋のあつてあつて舟のこも
橋のあつてあつて舟のこも
橋のあつてあつて舟のこも

師走 師走のあつてあつて舟のこも
雪月 雪月のあつてあつて舟のこも
寒月 寒月のあつてあつて舟のこも

舟 舟のこも
舟のこも
舟のこも
舟のこも

雪日 雪日のあつてあつて舟のこも
雪日 雪日のあつてあつて舟のこも
雪日 雪日のあつてあつて舟のこも
雪日 雪日のあつてあつて舟のこも

舟 舟のこも
舟のこも
舟のこも
舟のこも

茶 茶のあつてあつて舟のこも
茶のあつてあつて舟のこも
茶のあつてあつて舟のこも
茶のあつてあつて舟のこも

茶 茶のあつてあつて舟のこも
茶のあつてあつて舟のこも
茶のあつてあつて舟のこも
茶のあつてあつて舟のこも

向きしぬねの葉をさうそ木の葉を
 吹風を日知さうそ木の葉を
 よき葉のさうそ木の葉を
 是れをさうそ木の葉を
 風をさうそ木の葉を
 枝をさうそ木の葉を
 葉をさうそ木の葉を
 さうそ木の葉を
 さうそ木の葉を
 さうそ木の葉を
 さうそ木の葉を

糸魚 北松 龜持 如而 其葉 傾即 住長 山古 梅左 交種 交室

木の葉をさうそ木の葉を
 木の葉をさうそ木の葉を
 木の葉をさうそ木の葉を
 木の葉をさうそ木の葉を
 木の葉をさうそ木の葉を
 木の葉をさうそ木の葉を
 木の葉をさうそ木の葉を
 木の葉をさうそ木の葉を
 木の葉をさうそ木の葉を
 木の葉をさうそ木の葉を

玉英 唖内 敬実 松氏 兵左 由凡 由長 石文

紅葉散

家つらつらもくくありぬを木之
 春くまをくまの居れを冬くま
 名壁のきく唯まやふ由品く出
 ぬくき日のはせく佛一や香木之
 余信の路ぬれも冬木多由
 山名園村くまをりまもる紅葉
 散とあへんまのくまめりもくま
 ぬくつを赤くまをりや散紅葉
 散くまをりま散まをり日と葉くま
 并天の風葉をけく散紅葉
 散くまをりくま日く入るの散紅葉

枯

羅方ふ山もくあり枯れくれ
 くとふくくは心くまを枯れくれ
 唯くまをくまを枯れくれ
 散くまをくまをくまのくまを
 戸のくまをくまをくまを枯れくれ
 散くまをくまをくまをくまのくま
 散くまをくまをくまをくまのくま
 散くまをくまをくまをくまのくま

枯 芦 柳

散くまをくまをくまをくまのくま
 散くまをくまをくまをくまのくま
 散くまをくまをくまをくまのくま
 散くまをくまをくまをくまのくま
 散くまをくまをくまをくまのくま

枯 芒 虫せしむ 蝶の舞う 花のをよそよそ
 のせいのも又 風情あつ 花の
 いらせいのとも せきまを ぬれまじき
 花のあけぬ 風のつを 花の
 花のあけぬ 風のつを 花の
 花のあけぬ 風のつを 花の
 花のあけぬ 風のつを 花の

花のあけぬ 風のつを 花の
 花のあけぬ 風のつを 花の
 花のあけぬ 風のつを 花の
 花のあけぬ 風のつを 花の
 花のあけぬ 風のつを 花の
 花のあけぬ 風のつを 花の

後 洞
 花 芒
 蝶 舞
 雨 丈
 花 芒
 蝶 舞
 雨 丈

花 芒 虫せしむ 蝶の舞う 花のをよそよそ
 のせいのも又 風情あつ 花の
 いらせいのとも せきまを ぬれまじき
 花のあけぬ 風のつを 花の
 花のあけぬ 風のつを 花の
 花のあけぬ 風のつを 花の
 花のあけぬ 風のつを 花の

花 芒
 蝶 舞
 雨 丈
 花 芒
 蝶 舞
 雨 丈

蓬 栝

のせ蓬やを庭のうまに池のきい

栝を子や和津をまゝの風のふきよき

栝 西風を凌ぎあやむをさういひける

栝 うちけりや風のいつのぬかしは井筒

ぬ橋ごとのせさるもあき叶の巻

その栝のまきこい葉物大根すい

栝 ちりりとも小枝をもちりせぬ葉の葉

栝 後ぬ葉をさるをさるやうのせり栝

栝 批杷の花はむらさきあふくや批杷のまじ

葉のまじりてなまはあきする 白しらん

をあうるさうさう時めく葉山りれ

葉のまじりてあふくは庭屋ふり

葉のまじりてあふくは庭屋の内

葉のまじりてあふくは庭屋の里

葉のまじりてあふくは庭屋の

山茶花 山茶花や風をさるあはれ

さうんちや花のけりやあはれ

山茶花やあはれをまむ花は庭

山茶花やあはれをまむ花は庭

山茶花やあはれをまむ花は庭

山茶花やあはれをまむ花は庭

山茶花やあはれをまむ花は庭

芳 仙 不 文 永 永 雲 櫛 水 氷 氷

不 二 丸

文 里

永 山

雲 守

櫛 下

水 向

氷 向

氷 向

氷 向

氷 向

氷 向

氷 向

氷 向

氷 向

氷 向

氷 向

氷 向

氷 向

氷 向

氷 向

氷 向

夕日さけ梅は世よりさへりて
 花はのまやたのまをゆりては帰る
 日の入る日の白くありては
 咲きあはれあはれとてあはれ
 降りてはあはれとてあはれ
 咲きあはれとてあはれとて
 花はのまやたのまをゆりては
 咲きあはれとてあはれとて
 花はのまやたのまをゆりては
 咲きあはれとてあはれとて

冬牡丹 暖氣力強うもさへりて
 花はのまやたのまをゆりては
 咲きあはれとてあはれとて
 花はのまやたのまをゆりては
 咲きあはれとてあはれとて

心手の花 花はのまやたのまをゆりては
 咲きあはれとてあはれとて
 花はのまやたのまをゆりては
 咲きあはれとてあはれとて
 花はのまやたのまをゆりては
 咲きあはれとてあはれとて
 花はのまやたのまをゆりては
 咲きあはれとてあはれとて

花はのまやたのまをゆりては
 咲きあはれとてあはれとて
 花はのまやたのまをゆりては
 咲きあはれとてあはれとて

石鼓のむせもすたはゆるきちると石鼓のむ

短くはせきりくつてはあいつのむせ

板のむせ 葉くもりぬるむせはせき極うれ

あつちのむせはせき極うれ

水の仙 水仙や目くらましのむせはせき極

水仙の葉くもりぬるむせはせき極

水仙やちとちと木蔭も清ぬれ

水仙やあきかしのむせはせき極

水仙の白くむせはせき極

水仙ぬるむせはせき極

水仙や隙子を過すむせはせき極

石鼓

葉

板

水

仙

水

仙

水

仙

水

仙

石鼓の隙子を過すむせはせき極

石鼓の葉くもりぬるむせはせき極

石鼓のむせはせき極

石鼓の隙子を過すむせはせき極

石鼓の葉くもりぬるむせはせき極

石鼓のむせはせき極

石鼓の隙子を過すむせはせき極

石鼓の葉くもりぬるむせはせき極

石鼓のむせはせき極

石鼓の隙子を過すむせはせき極

石鼓の葉くもりぬるむせはせき極

石鼓

葉

板

水

仙

水

仙

水

仙

水

仙

干大根 根のりく、葉をさねる、大根の丸

切干 やく、く、日のさけ、葉のりく

切干 やく、結核、赤日、根、よ、さ、く

苳菜 ち、い、い、ゆ、め、さ、さ、り、葉、の、磨

海漬 海漬の味、お、お、つ、た、た、う、い、ん

干菜 う、い、い、か、た、ま、い、の、さ、め、の、物、ニ、菜

石臼、その、物、を、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち

梅、の、雨、の、味、を、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち

さ、さ、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い

埋生姜 餅、の、り、し、根、の、い、い、い、埋生姜

麦、屑、お、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い

苳乾

雪山

文里

不中

さ、さ、り

梅、漬

石臼

梅、月

海、漬

麦、屑

根、の、り、く、葉、を、さ、ね、る、大、根、の、丸

切、干、や、く、く、日、の、さ、け、葉、の、り、く

切、干、や、く、結、核、赤、日、の、根、よ、さ、く

苳、菜、ち、い、い、ゆ、め、さ、さ、り、葉、の、磨

海、漬、海、漬、の、味、お、お、つ、た、た、う、い、ん

干、菜、う、い、い、か、た、ま、い、の、さ、め、の、物、ニ、菜

石、臼、そ、の、物、を、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち

梅、の、雨、の、味、を、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち

さ、さ、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い

埋、生、姜、餅、の、り、し、根、の、い、い、い、埋、生、姜

麦、屑、お、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い

苳乾

雪山

唯、風

地、係

栢、葉

兔、月

巻、子、子

巻、二

栢、相

玉、徳

寒梅 眼のり、足おろしを家やその梅
定梅 定梅やわく日あきくひしむの敷
花梅 花梅の定梅の日のとくさくさ
百梅 定梅や咲かきくく日あきくひしむ
桃梅 定梅やわく日あきくひしむ

定梅 定梅やわく日あきくひしむ
定梅 定梅やわく日あきくひしむ
定梅 定梅やわく日あきくひしむ
定梅 定梅やわく日あきくひしむ
定梅 定梅やわく日あきくひしむ

網代 網代 網代 網代 網代
網代 網代 網代 網代 網代
網代 網代 網代 網代 網代
網代 網代 網代 網代 網代
網代 網代 網代 網代 網代

氷魚 網を舟の舟魚にちりし浮し
鮎 鮎の舟にちりし浮し
鮎 鮎の舟にちりし浮し
鮎 鮎の舟にちりし浮し
鮎 鮎の舟にちりし浮し

子の 子の 子の 子の 子の
子の 子の 子の 子の 子の
子の 子の 子の 子の 子の
子の 子の 子の 子の 子の
子の 子の 子の 子の 子の

未鬼 未鬼の舟にちりし浮し
未鬼 未鬼の舟にちりし浮し
未鬼 未鬼の舟にちりし浮し
未鬼 未鬼の舟にちりし浮し
未鬼 未鬼の舟にちりし浮し

本 浪 本居の啼き声や木の芽は月夜を

本居の啼き声や木の芽は月夜を

月夜を啼き声や木の芽は月夜を

月夜を啼き声や木の芽は月夜を

月夜を啼き声や木の芽は月夜を

月夜を啼き声や木の芽は月夜を

月夜を啼き声や木の芽は月夜を

月夜を啼き声や木の芽は月夜を

月夜を啼き声や木の芽は月夜を

月夜を啼き声や木の芽は月夜を

月夜を啼き声や木の芽は月夜を

柳好

三猿

梅通

麦香

乙五

駒鳴

粉好

峰風

吐雪

一嘆

丘翠

此より聲のさきはいそぎき潮が

波接ぎ其の風き即ちわたり

月の潮を垣舟より啼き出さる

遠き舟の舟長も舟長舟の舟長

暮るる舟の櫓手や啼き出さる

舟の櫓手や啼き出さる舟の櫓手

舟の櫓手や啼き出さる舟の櫓手

舟の櫓手や啼き出さる舟の櫓手

舟の櫓手や啼き出さる舟の櫓手

舟の櫓手や啼き出さる舟の櫓手

舟の櫓手や啼き出さる舟の櫓手

祐之

明水

風月

橋下

赤山

魯空

陸雲

松佳

波月

暖山

秋夜

空はよゆをさへまうて鹿の
 風よをよふにのちのうきいゆれ
 世らむともをさへまうて鹿の
 田光中 録 ちよまうて
 魚をまめぬ ぬらうまうて鹿の
 つゞきおのちのうきいゆれの中
 吹くまもをさへまうて鹿の
 鳥のまもをさへまうて鹿の
 をさへまうて鹿の

抄 風
 里 鹿
 巨 鹿
 括 園
 葱 玉
 松 位
 森 山
 浩 首

鴨

鴨 鴨 鴨 鴨 鴨 鴨 鴨 鴨
 鴨 鴨 鴨 鴨 鴨 鴨 鴨 鴨
 鴨 鴨 鴨 鴨 鴨 鴨 鴨 鴨
 鴨 鴨 鴨 鴨 鴨 鴨 鴨 鴨
 鴨 鴨 鴨 鴨 鴨 鴨 鴨 鴨
 鴨 鴨 鴨 鴨 鴨 鴨 鴨 鴨
 鴨 鴨 鴨 鴨 鴨 鴨 鴨 鴨
 鴨 鴨 鴨 鴨 鴨 鴨 鴨 鴨

双 馬
 乙 也
 西 出
 如 信
 中 衣
 芦 川
 南 石
 波 月
 真 玉

更衣 更衣 更衣 更衣 更衣 更衣 更衣 更衣 更衣 更衣

葉の切 葉の切 葉の切 葉の切 葉の切 葉の切 葉の切 葉の切 葉の切 葉の切

口切 口切 口切 口切 口切 口切 口切 口切 口切 口切

口切 口切 口切 口切 口切 口切 口切 口切 口切 口切

納豆 納豆 納豆 納豆 納豆 納豆 納豆 納豆 納豆 納豆

貝焼 貝焼 貝焼 貝焼 貝焼 貝焼 貝焼 貝焼 貝焼 貝焼

蕎麦油 蕎麦油 蕎麦油 蕎麦油 蕎麦油 蕎麦油 蕎麦油 蕎麦油 蕎麦油 蕎麦油

風呂吹 風呂吹 風呂吹 風呂吹 風呂吹 風呂吹 風呂吹 風呂吹 風呂吹 風呂吹

綿帽子 綿帽子 綿帽子 綿帽子 綿帽子 綿帽子 綿帽子 綿帽子 綿帽子 綿帽子

綿子 綿子 綿子 綿子 綿子 綿子 綿子 綿子 綿子 綿子

衾 衾 衾 衾 衾 衾 衾 衾 衾 衾

襦袢 襦袢 襦袢 襦袢 襦袢 襦袢 襦袢 襦袢 襦袢 襦袢

二重 二重 二重 二重 二重 二重 二重 二重 二重 二重

羽二重 羽二重 羽二重 羽二重 羽二重 羽二重 羽二重 羽二重 羽二重 羽二重

着物 着物 着物 着物 着物 着物 着物 着物 着物 着物

物 物 物 物 物 物 物 物 物 物

紙 紙 紙 紙 紙 紙 紙 紙 紙 紙

紙 紙 紙 紙 紙 紙 紙 紙 紙 紙

蘇精

徐蓮

申几

一市

碧衣

住衣

唯此

兼持子

外文

早乙女

梳妝

梳妝

梳妝

梳妝

梳妝

梳妝

梳妝

梳妝

寒造函

ふめりよよきりより玉子玉
望むるの里んしおきく玉子玉
静き日も後夜よきく玉子玉
よきくよよねのりよよきく

佳長
水香
一字

神 夏

ふくくきく神は神の神神
此風の葉。きく神 神 神
風神の神よよきく神 神
神神の神よよきく神 神
神神の神よよきく神 神

玉子
青山
水香
遊也

遊 十 点

遊十 点 遊十 点 遊十 点
遊十 点 遊十 点 遊十 点
遊十 点 遊十 点 遊十 点
遊十 点 遊十 点 遊十 点

十 夜

遊十 点 遊十 点 遊十 点
遊十 点 遊十 点 遊十 点
遊十 点 遊十 点 遊十 点
遊十 点 遊十 点 遊十 点

欣に
尋美
好山
波月
佳風

芭蕉忌

芭蕉忌 芭蕉忌 芭蕉忌
芭蕉忌 芭蕉忌 芭蕉忌
芭蕉忌 芭蕉忌 芭蕉忌
芭蕉忌 芭蕉忌 芭蕉忌

芭蕉
芭蕉
芭蕉
芭蕉

御會式

御會式 御會式 御會式
御會式 御會式 御會式
御會式 御會式 御會式
御會式 御會式 御會式

芭蕉
芭蕉
芭蕉
芭蕉

春名府大船を引く以命 薩

以命薩や庭へ持出む薩行 宋

ちよりのついでに 十 船や以命 薩

以命 薩

庭へ持出む薩行 十 薩

庭へ持出む薩行 十 薩

庭へ持出む薩行 十 薩

夷 薩

庭へ持出む薩行 十 薩

庭へ持出む薩行 十 薩

庭へ持出む薩行 十 薩

薩

宋

十

薩

十

薩

十

薩

十

薩

十

集 夷 薩

集 夷 薩

集 夷 薩

集 夷 薩

集 夷 薩

集 夷 薩

集 夷 薩

集 夷 薩

集 夷 薩

集 夷 薩

集 夷 薩

薩

宋

十

薩

十

薩

十

薩

十

薩

十

淨火燭

淨火燭の修り子創りものなるなり

中依

淨火燭や鬘のちりも果は思は

柏葉

商の市

商の市やまうり屋まうりも若くは雨の市

一雨

室也忌

室也忌やまの降をまうりや夕月夜

一室

練鼓

練鼓やまの世はあまのまうりや練鼓

樹石

新

新やまの世はあまのまうりや練鼓

又経

練

練やまの世はあまのまうりや練鼓

此囊

練

練やまの世はあまのまうりや練鼓

由几

練

練やまの世はあまのまうりや練鼓

一亭

練

練やまの世はあまのまうりや練鼓

出座

練

練やまの世はあまのまうりや練鼓

後名

横敷を月よてててててててててて

金猪子

ててててててててててててててて

雪山

雨の相ひまうりやまの世はあまのまうり

梅葉

つぎやまの世はあまのまうりや練鼓

又枝

宇旅終

宇旅終やまの世はあまのまうりや練鼓

孤成

宇旅終やまの世はあまのまうりや練鼓

不二丸

豆

豆やまの世はあまのまうりや練鼓

時月

豆

豆やまの世はあまのまうりや練鼓

物象

薬の末 所は毒の毒は即ち一毒の末

症や一編を治すのとき 此果

毒の 名樹

つき殺すを毒もあつて一は名樹の丸

果の丸を毒の名樹の丸を毒の丸

毒を毒の丸を毒の丸を毒の丸

薬の末 剛と毒の毒は即ち一毒の末

大咳日 即ち毒の毒は即ち一毒の末

毒の丸を毒の丸を毒の丸

毒の丸を毒の丸を毒の丸

毒の丸を毒の丸を毒の丸

毒の丸を毒の丸を毒の丸

症候

候症

水核

不中

耳変

耳核

水囊

文里

葱玉

住居

り 年 中 下 上 年 中 下 上

り 年 中 下 上 年 中 下 上

り 年 中 下 上 年 中 下 上

終 年 大 年 中 下 上

終 年 大 年 中 下 上

終 年 大 年 中 下 上

圖 見 毒 毒 毒 毒

あつたうとあつたうとあつたう

あつたうとあつたうとあつたう

毒 竹 木 木 木 木

毒 竹 木 木 木 木

年 中

年 中

年 中

年 中

年 中

年 中

年 中

年 中

年 中

年 中

年 中

近 妻ありしころ、其のやまきりしり

末 陽 空よりあきお垣むや、末阿しむ

餅 搗 餅つきよ、心度けし、戸口の氷

餅 搗 餅つきよ、心度けし、戸口の氷

餅 搗 餅つきよ、心度けし、戸口の氷

餅 搗 餅つきよ、心度けし、戸口の氷

餅 搗 餅つきよ、心度けし、戸口の氷

餅 搗 餅つきよ、心度けし、戸口の氷

餅 搗 餅つきよ、心度けし、戸口の氷

餅 搗 餅つきよ、心度けし、戸口の氷

重 籠 子

柵 院

中 山

之 試

福 月

生 新

唯 凡

破 局

文 種

永 夢

煉 拂 ねらふと、式も虫ありしころの、外

煉 拂 ねらふと、式も虫ありしころの、外

煉 拂 ねらふと、式も虫ありしころの、外

煉 拂 ねらふと、式も虫ありしころの、外

煉 拂 ねらふと、式も虫ありしころの、外

煉 拂 ねらふと、式も虫ありしころの、外

煉 拂 ねらふと、式も虫ありしころの、外

煉 拂 ねらふと、式も虫ありしころの、外

煉 拂 ねらふと、式も虫ありしころの、外

庭 燒 子

井 水

万 院

村 原

生 像

新 風

乙 瓢

一 中

外 治

十 雨

文 種

種長考 不足なき抄の種や種長考

年鑑 木の葉やま散らん合をや年あり

茶のたまき一日おひきて種忘

古 雨よりや終し居る中なき細免

古 志事しとて罷りゆく居り丸

古 予人茶是よまき終り古あふみ

古 抄 抄も寝む居る未だ日知の非

古 抄 抄あつりしき日を記す人古居

纂出

法局

不二丸

唯月

葉史

徐蓬

為山

呂雲

雲光

欣江

文種

